

埼玉県比企郡小川町で毎年夏に開かれる「小川町七夕まつり」です。写真には、色鮮やかな吹き流し飾りが道路いっぱいに並び、多くの来場者で賑わう様子が写っています。現在は歩行者天国となる範囲も駅前から役場周辺を中心とした比較的コンパクトな規模ですが、それでも小川町駅を降りた人々が次々と会場へ向かい、露店や飾りを楽しむ活気に満ちた雰囲気が伝わってきます。夏空の下を揺れる七夕飾りは、今も小川町の夏の風物詩として、多くの人を迎えています。

しかし、私の子どもの頃、今から五十年以上前の七夕まつりは、現在とは比べものにならないほど盛大でした。駅前から国道まで続く通りには巨大な七夕飾りが何本も立ち並び、人波で思うように歩けないほどの賑わいでした。商店街の各店舗は「今年は負けられない」とばかりに趣向を凝らした飾りを競い合い、町全体が祭り一色に染まっていたことを、今でも鮮明に覚えています。色とりどりの飾りを見上げながら歩くだけでも胸が躍り、子どもにとって夢のような一日でした。

私も毎年、いとこたちと一緒にこの七夕まつりへ出かけるのを心待ちにしていました。祖母から「お足」と呼んでいたお小遣いをもらい、それを握りしめて屋台を巡り、何を買おうかと相談する時間も、祭りの大きな楽しみの一つでした。時代の流れとともに規模は大きく縮小しましたが、この日も駅前には多くの人が集まり、笑顔で祭りを楽しむ姿を見ることができました。かつての華やかさを知る者として少し寂しさも感じますが、それでも故郷の夏の伝統が今なお受け継がれ、多くの人々で賑わっている光景を目にすると、とても嬉しい気持ちになりました。

(2026 年 7 月下旬／埼玉県比企郡小川町)

